令和９事業年度第１回　SusHi Tech Tokyo 実行委員会

１　日　　時：　令和８年８月 24 日（月）13:15～14:00　【オンライン開催】

２　出 席 者：　東京都副知事　宮坂委員長
東京都スタートアップ戦略推進本部本部長　佐久間副委員長
一般社団法人日本経済団体連合会　小川委員（代理出席・近藤氏）
公益社団法人経済同友会　齋藤委員
一般社団法人新経済連盟　関委員
東京商工会議所　小林委員（代理出席・渋谷氏）
一般社団法人スタートアップエコシステム協会　藤本委員
一般社団法人スタートアップスタジオ協会　佐々木委員
一般社団法人インパクトスタートアップ協会　福田委員
一般社団法人スタートアップ協会　砂川委員

３　議事概要：　①宮坂実行委員長より開会挨拶
②事務局より審議事項についての説明
(1) SusHi Tech Tokyo 2027 に関する企画・運営等業務委託の契約締結について
(2) SusHi Tech Tokyo プログラムディレクターの設置について
③審議
(1) SusHi Tech Tokyo 2027 に関する企画・運営等業務委託の契約締結について
・これまで準備期間が不足する場面もあったが、契約締結に当たり、スケジュールはどのように考えているか。
→事業者のスケジュールを精査するとともに、事務局としても登壇者対応や出展準備等を前倒しで進め、フォーカスオンの公表等も含めて早期の準備を図る。
※可決
(2) SusHi Tech Tokyo プログラムディレクターの設置について
・人的ネットワークや信用を活用して登壇者招聘等を行う以上、対価を支払って協力してもらう方がよいと思う。
→トップ層のセッション等を組むのが難しい。一方、スシテックに関われることに意義を見い出し、登壇者をぜひ紹介したいとの声をいただいたこともあり、このような制度設計で提案させていただいた。
・受託事業者とプログラムディレクターとの棲み分け、役割分担や責任範囲を明確にした方がよい。
→受託事業者には基本的な調整等に取り組んでもらう。招聘の難しい部分に関して、こうした制度を考えている。セッションは実行委員会で責任を持ってやっていく。
・有償の場合、どのような基準になるのか

→原則としては、都の謝金基準に準じることになる

・議論に先立ち、具体的に想定する登壇者や担う業務、責任範囲を示したうえで制度設計を検討すべきである。

→いただいたご意見を踏まえ、継続審議とさせていただきたい。受託者にも確認を行いつつ、改めて整理する。

※継続審議

④事務局より意見交換案件についての説明

・フォーカスオンについて

⑤意見交換

・AI をベースとするのはとてもよい。加えて、技術だけでなく、人文科学のセッションなども取り入れ、それを欧米でなく、日本・アジアで議論することに面白みが見いだせる。

・「AX」と「Longevity」「Resilience」ではテーマの性質が異なるため整理方法に工夫が必要であり、多様な人材が活躍できる社会といった東京都らしい視点も盛り込むべきである。

・日本や東京の強みを打ち出し、投資や産業活性化につながるテーマ設定とするとともに、災害対応や人口減少社会への対応など、日本発の課題解決事例を発信することで海外カンファレンスとの差別化を図るべきである。

・Longevity やResilience について区分けを整理し、中小企業を含む幅広い層に分かりやすく伝えていく必要がある。また、ビジネスデイとパブリックデイにおける見せ方や全体設計についても整理すべきである。

・「働き方・生き方・暮らし方」という整理は分かりやすく、日本のコンテンツ産業や IP、食文化等の強みも活用しながら、英語名称やブランディングを更に磨き込むべきである。

→ご意見を踏まえ、テーマ設定や分類方法、表現・ブランディング等について整理し、改めて報告する。

⑥佐久間副委員長より閉会挨拶